

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	コミュニティバス運営に関する検討委員会を設置し、土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等の利便性の向上について検討を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	コミュニティバス運行業者をプロポーザルで決定し、土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等を盛り込んだ運行計画を実施する。
②①に基づく取り組み結果	検討委員会で新たな運行計画(案)をまとめた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	市内4ルート(東線、東線2、南線、西線)に分け月曜日から金曜日まで、1日4便から6便の運行経費から運賃収入を引いた金額に対する予算の範囲内での補助金の支出 平成28年度内に土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等を盛り込んだ運行計画を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	・平成23年度から平成25年度までは、約3%の利用客が増えていたが、平成26年度は、約4%、平成27年度は、約1%の減となった。運行車両の老朽化による買替時期が来ている。 運行の定時性確保の要望、行ルートの改編要望、バス停のベンチ設置要望、運行計画の変更により、年間10万人の利用客を見込む			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	利用客数 74,075人(前年比1.0%減) 収支率 22.7%(増減なし)					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i コミュニティバス利用者数	78,036	74,771	74,075	人	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	20,149	20,182	金額(千円)	内容	37,778	
国支出金(千円)	0	0	102	報償費	0	
県支出金(千円)	0	0	20,080	補助金	0	
市債その他(千円)	5,000	5,000			5,000	
一般財源(千円)	15,149	15,182			32,778	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	土、日の運行、定時性の確保、増便の要望がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	現在、コスト的には低いと考えるが、高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	補助金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金	21,023	21,023	当初	21,023	H26からの繰越	0
				H26⇒27繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	20,182
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成28年度への繰越額(単位:千円)					0

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	北総鉄道耐震化助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	新規事業のため、前回掲げた内容なし	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	高架橋柱補強 504本 落橋防止 13.5連
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	高架橋柱、橋脚、橋桁	意図(対象をどうするのか)	首都圏直下型地震等による高架構造物の倒壊を防ぐ
②事務事業の概要	高架橋柱補強1474本、落橋防止34連、橋脚補強3.0基の補強工事に對し、国、県、関係6市による工事費の補助を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	熊本での地震により、公共建築物、高架構造物の耐震性については、市民の関心が高まっていると考えられる。平成29年には、596本の柱の補強、1基の橋脚補強、14連の橋の落橋防止工事を行い、補強工事が完了する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	高架橋柱補強374本、落橋防止6.5連、橋脚補強2.0基の工事に對し、鎌ヶ谷市負担分として17,282千円の補助を行った。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 高架橋柱補強	-	-	374	本	業務取得
	ii 落橋防止	-	-	6.5	連	業務取得
	iii 橋脚補強	-	-	2	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	-	17,282	金額(千円)	内容	23,321	
国支出金(千円)	-	-	17,282	補助金	-	
県支出金(千円)	-	-	-	-	-	
市債その他(千円)	-	-	-	-	-	
一般財源(千円)	-	17,282	-	-	23,321	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	高架橋柱補強 374本/1474本 25.3%が完成 落橋防止 6.5連/34連 19.1%が完成 橋脚補強 2.0基/3.0基 66.7%が完成		
②評価	i 市関与の妥当性 3高い	iii 公平性 3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性 3高い	iv 効率性 3高い	
③上記評価の理由	首都圏直下型地震は、30年以内に70%程度の確率で起こると想定されており、対策を進めておく必要がある。		

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	補助金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金	17,284	17,284	当初	17,284	17,282	H26からの繰越
				H26⇒27繰越			
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円)					0
				流用・充当			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市軸形成促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した中で、地域の活性化に向けた地元まちづくり団体等への支援策の検討を行う。 【初富】初富駅周辺の整備について、引き続き関係機関との協議を行い、整備方針を決定する。また、関係地権者との交渉を行い、整備に必要な用地を取得する。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	【東鎌西口】地域の活性化に向けて、引き続き商工振興課とも連携しながら、支援策の検討を行う。 【初富】初富駅前広場等の整備に向けて、整備箇所周辺の現況測量を実施する。また、事業計画案について、地域住民等への周知を図る。
②①に基づく取り組み結果	【東鎌西口】地域の活性化に向けて、地元まちづくり団体等との意見交換を行ったが、支援の実施には至っていない。 【初富】関係機関との協議が完了し、整備方針を策定した。また、整備に必要な用地の取得が完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	【東鎌西口】くらしのみちゾーン区域 【初富】初富駅周辺	意図(対象をどうするのか)	【東鎌西口】誰もが安心して歩くことができ、賑わいに満ちた中心市街地の形成を図る。 【初富】新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅前広場等の整備を行う。
②事務事業の概要	都市軸の一翼を担う東武鎌ヶ谷駅西口周辺地区及び初富駅周辺地区において、都市基盤整備の必要性を明らかにし、計画的な市街地の形成を図る。東武鎌ヶ谷駅西口周辺地区では、「くらしのみちゾーン」事業として道路整備等が完了したなかで、今後は地元団体等の支援等による地域の活性化を検討する。初富駅周辺地区では、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅周辺の整備を行うため、地元組織や関係機関と協議しながら事業を推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した中で、地元まちづくり団体等を支援しながら地域の活性化を推進する必要があるが、地元関係者が高齢化し、次世代の担い手も不足している状況であるため、地域のコミュニティを強化する必要がある。 【初富】新京成線連続立体交差事業の進捗状況等を見据えながら整備を促進する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	【東鎌西口】地域の活性化に向けて、地元まちづくり団体等との意見交換を行った。 【初富】関係機関との協議が完了し、整備方針を策定した。また、整備に必要な用地の取得が完了した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 道路整備着手延長(東鎌西口)	300	125	0	m	業務取得
	ii 用地取得面積(初富)	0	0	265	m ²	業務取得
	iii 鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	52	-	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	120,627	30,511	金額(千円)	内容	2,000	
国支出金(千円)	46,377	0	27,287	初富駅前広場整備事業用地購入費	0	
県支出金(千円)	0	0			0	
市債その他(千円)	34,000	24,500			0	
一般財源(千円)	40,250	6,011			2,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	【東鎌西口】地域の活性化に向けて、引き続き商工振興課とも連携しながら、地元まちづくり団体等への支援策の検討が必要である。 【初富】初富駅前広場等の整備に向けて、周辺住民等の理解と協力が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した状況の中で、それらを活かしながら地域の活性化を図る必要があるため。 【初富】駅利用者の利便性や安全性を向上させるべく、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅周辺の整備を促進する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	【初富】用地購入	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	初富駅前広場等の整備に必要な用地の取得が完了した。	29,221	31,014	当初	29,221	30,511	H26からの繰越	0
				H26⇒27繰越	0		現年分	30,511
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	1,793			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)						0

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	近隣商業拠点整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	北初富駅周辺の整備について、引き続き関係機関との協議を行い、整備方針を決定する。また、整備に必要な用地の取得に向けて関係地権者との交渉を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	北初富駅周辺の整備について、引き続き関係機関との協議を行い、整備方針を決定する。また、整備に必要な企業庁用地を取得し、その他関係地権者との交渉を継続する。
②①に基づく取組み結果	北初富駅周辺の整備に向けて関係機関との協議を行ったが、整備方針の決定には至っていない。また、用地取得については関係地権者との交渉に着手した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	北初富駅周辺	意図(対象をどうするのか)	新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅前広場等の整備を行う。
②事務事業の概要	近隣商業拠点の一つである北初富駅周辺地区では、市民の日常生活に身近な商業等のサービス機能の充実を目指し、駅前広場等の整備に向け事業を推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業の進捗状況等を見据えた調整が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	北初富駅周辺の整備に向けて関係機関との協議を行うとともに、関係地権者との交渉に着手した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 事業着手箇所数	0	0	0	箇所	業務取得
	ii 鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	52	-	-	%	市民意識調査
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	1,486	0	金額(千円)	内容	5,411	
国支出金(千円)	0	0			0	
県支出金(千円)	0	0			0	
市債その他(千円)	0	0			0	
一般財源(千円)	1,486	0			5,411	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	北初富駅周辺の整備に向けて、引き続き関係機関と協議しながら検討していく必要がある。また、整備に必要な用地の取得に向けて、関係地権者との交渉を継続する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	駅利用者の利便性や安全性を向上させるべく、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅前広場等の整備を促進する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	測量	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	測量委託の実施については再検討することとなった。	1,000	1,000	当初	1,000	0	H26からの繰越	0
				H26⇒27繰越	0			
③達成状況	未完了			補正	0	0	現年分	0
				流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由	関係機関との協議が整っておらず、測量の実施には至らなかったため。	平成28年度への繰越額(単位:千円) 0						